川里地域小中一貫教育校新設に係る
ワークショップ

日時：令和5年8月20日（日）
9時00分～12時 00分
場所：川里支所　会議室

第2回ワークショップ開催：8月 20日

タイムスケジュール

8:45　～	受付
9:00　～　9:05	開会
9:05　～　9:10	前回ワークショップの報告
9:10　～　9:25	事業計画について　Q&A　/　質疑応答
9:25　～　9:30	各グループに分かれ自己紹介　/　リーダー決定
9:30　～　9:40	計画説明　①案、②案
9:40　～　10:05	グループによる意見交換
10:05　～　10:15	計画説明　③案、④案
10:15　～　10:40	グループによる意見交換
10:40　～　10:55	休憩
10:55　～　11:00	計画説明　⑤案
11:00　～　11:15	グループによる意見交換
11:15　～　11:20	発表準備
11:20　～　11:50	発表　各グループ 10 分程度
11:50　～　12:00	講評・閉会/事務連絡
12:00	解散

［ワークショップスケジュール］

回数	開催日時	内　容
第1回	6 月25 日(日) 9時00分～12時00分 ふるさと会館　会議室	◆テーマ1 「新設校計画に向けて概要説明、意見・要望・課題の整理」 1. プロポーザル案紹介・参考事例紹介 2. 既存校舎見学 3. 意見交換
第2回	8月20日(日) 9時00分～12時00分 川里支所　会議室	◆テーマ2 「建物規模・必要機能・複合施設の検討」 1. 敷地利用に対する意見交換 2. 平面プランに対する意見交換 3. 複合施設・機能に対する意見交換
第3回	11月26日(日) 9時00分～11時00分 川里支所　会議室	◆テーマ3 「新設校計画のまとめ、今後の課題整理」 1. 基本計画プランに対する意見交換 2. 今後の課題・要望に対する意見交換

『テーマ1：既存校舎の課題』

駐輪場・駐車場

- 駐車場が狭い
- （川中）駐輪場置き場が不便そう
- 自転車おき場の屋根の塗装を

IT・セキュリティ

- セキュリティ
- IT化していない

バリアフリー

- 校内へのスロープ等車椅子でも移動
- 玄関のバリアフリー化
- 建物の問題だけでいいのか

- 現在利用している子供たちが不便に感じている所は直していくべき
- 新校舎までに今やれることをやる方も大切
- 当事者としての子どもの意見も大切では？

部活動

- 部活
- 部活動
- 外にも水のみ場を作ってほしい
- 校庭の草
- プール
- プールは必要なのか？

空調

- 体育館にも冷房を！
- 全ての教室等にエアコンが無いとしんどい
- 廊下が暑い

インフラ整備

- 職員室狭い
- 階段狭い
- 古い
- トイレ
- 教室狭い
- 全体的に暗い
- トイレが狭い
- トイレ和式→洋式
- LED
- 教室が狭いと感じた
- 外トイレ男女別？
- 足元が良くない
- インクルージョンはどうなる

Aグループ

『テーマ1：既存校舎の課題』

身体づくり

- 体力作りが自然にできるもの

バリアフリー

- 渡り廊下の清潔さ
- 渡り廊下の安全
- バリアフリーにしたい
- バリアフリートイレ（洋式を増やす）
- 感染症対策なし
- 暗い明るい学校求む
- 廊下を広く
- 車イス、ケガ人2階に行けない
- トイレを新しく
- バリアフリーは当然必要
- 先生の目の届く教室、校庭配置
- 狭い
- バリアフリー段差無し
- トイレ不安になる
- 教室が狭い
- エアコンついてたっけ？教室暑い？
- バリアフリー化ができていない設備（トイレ・階段等）
- ゆとりのあるスペースがある
- あつい！！エアコンほしい
- エレベーターの設置ケガしない

支援学級

- 特別支援学級が欲しい
- 支援学級を1階にしてほしい

設備（増やしたい）

- 図書館の充実は良いが図書購入費の充実が必要
- 給食室が欲しい
- 授業のIT化に適した設備になっていない
- 先生の休憩室が必要
- 机を広くしてほしい
- 部活の人数と使用する場所が適した広さの場
- 小学生に合うように
- 駐車場が多く必要

残したいもの

- シンボルツリーは残したい
- シンボルツリーは大切に(^-^)
- 農園は残してほしい
- グランドゴルフ場は残してほしい
- 下駄箱を大きくしてほしい

安全

- ゾーニングなし人・車・自転車みんながゴチャゴチャ
- 動線不明
- 土地が低いので浸水等の事も考えて欲しい

Bグループ

『テーマ1：既存校舎の課題』

ICT:GIGAスクール

- ITインフラ Wi-Fi電源

- 子どもの様子 先生たちの様子 見たかった
- 国際化（多文化共生）
- 教員数と業務のバランス

生物

- 野菜作り
- 生物多様性
- ウサギ
- シンボルツリー
- 小動物の飼育
- 共和小のホタル

小中

- 教員の出前授業
- 小中生との交流

地域

- 学童保育
- 応接室 地域交流
- 更衣室 男女
- 保護者と先生と話せる様な部屋（気軽に）

- 給食 子ども食堂

校庭

- グラウンド緑化
- 校庭のメンテナンス（雑草など）
- 芝生希望（グラウンド）
- ｸﾞﾗｳﾝﾄﾞ緑化するなら野球場（第2ｸﾞﾗｳﾝﾄﾞ）が必要になる

安全 自転車

- 自転車 ・安全 ・アシスト
- 安全性（防犯対策）

プール

- プール 年齢幅広いので
- プール ある？ない？

教室

- 教室 風通しの良い環境
- 昇降口の段差
- 教室が圧迫感がある
- 渡り廊下の段差
- 教室が狭い
- 教室内の個人のロッカー（金庫が欲しい）
- 廊下が狭い
- 階段の段差
- 学級数が減少

トイレ

- トイレの改善 洋式・広さ
- 築35年の割りに古い
- トイレ ・汚い ・和式が多い ・狭い

バリアフリー

- バリアフリー
- 逃げ場所
- インクルーシブ（J.F.）
- ・障害 ・男女 ・外国

空調

- ZEB化（省エネ）推進
- 空調が特別教室にあるか

Cグループ

『テーマ2：小中一貫校に期待すること』

ITとITの活用

- リモートの活用で他国との交流
- IT・プログラミング
- 専門分野の先生
- 一クラスに対する教師数
- ITリテラシー

学習プログラム（ソフト+ハード）

- 探求型の学習カリュキュラム
- 畑を使える
- 体験型教育
- 特長を生かした教育
- 特別の支援を必要とする子どもへの対応
- 特別支援

教室+職員室とハードセキュリティー

- 先生の空間
- 災害時への充実した設備　ソーラー等
- 学校への送迎
- 教室から教室への移動
- 死角

- 外部開放
- コミュニティースクール
- ナイター整備
- グランドゴルフも残してみては？

- 土地
- 田んぼも拡充して欲しい（ふるさと館　正面横）

要説明　ハード

- 先生の(現場)意見をきいて下さい
- 小学生と中学生一緒に教育する
- きめ細かな説明会をして！一貫教育について
- 地区ごとの意見交換会をもっとやって下さい
- 体育館も小中別にすべき
- 分離型も検討して下さい
- 小学校・中学校の校舎は別にすべき

ふるさと館の機能

- 教育支援センターを一つの建物に入れるのは問題がある
- 特別支援の場
- ふるさと館は村の人達が苦労して作ったもの　残して下さい

ハード

- 図書館は是非独立した施設として残してほしい
- 図書館は一般の人達と共同で使用するには問題が有るのでは

Aグループ

『テーマ2：小中一貫校に期待すること』

授業

- 楽しい音楽の授業
- 楽しい理科（実験）授業
- 独自のカリキュラム編成
- 英語の授業をもっと増やす
- 英語の力を（会話力）つける
- これからの社会で生きていける力を身につける
- 体力がしっかりつく（小学生）仕組み
- 学習面の向上

先生

- 先生の人数を多く
- 先生の配置の充実 負担軽減
- 先生の配置増加
- 教員の数を増やして欲しい（特例で）
- 担当、副担当2人の先生が必要（小学校）
- クラスに複数の先生配置 現状の理解求める
- 教員が集まりやすいように義務教育学校ではない小中一貫校
- 教科担任制の早送り（小学校）
- 先生の目が届く配置
- 小人数のクラスに
- 教員のサポート人員が欲しい（印刷・実験準備・部活etc）
- 保護者のサポートを入れる（ミシン、水泳の見守り）

行事

- お話会を続けられるように
- 入学式・卒業式をのこす

- （小学校）高学年のリーダーシップが発揮できるよう6・3制の中高一貫校

地域

- 地域の歴史を大切に
- 地元の良さを生かす教育
- 地域とのつながりを大切に
- 地域と学校の関りを続けてほしい
- 地域住民の声が届く仕組みがほしい

心の教育

- 土地・予算の拡大
- 低学年と高学年の交流
- 下級生へのおもいやりを育てる
- 期待はしない
- 中ーギャップの解消
- 心の問題に重点を置く
- いじめをうまないクラスづくり
- 人間関係が固定しないような工夫が欲しい
- 小中ギャップの無い教育
- 教育委員会のフォローをもっとしっかりしてほしい
- パソコンの使い方モラル
- いじめへの対応すばやく

- 部活動の充実

ハード面

- ゾーニング身体の大きな中学生と小学生を分ける
- 太陽光発電
- 低学年用の校庭
- 校舎門通路の安全
- 階段（段差）の少ない校舎
- 地域の災害拠点にしてほしい
- 教室を広くとる
- 充実した設備
- 校舎がキレイに
- 生徒増加を期待

Bグループ

『テーマ2：小中一貫校に期待すること』

カリュキュラム

- 飛び級できる子育てる
- 小級ｶﾘｭｷｭﾗﾑと中級ｶﾘｭｷｭﾗﾑの統合（道徳・生徒）
- 中級教室の小級部での授業実施
- 鴻巣におけるGIGA2スクール推進校
- 中学校の専門の教科の先生が小学校に教えにきてくれる
- 委員会活動小中合同
- 小中一緒にスポーツ(部活)

伝統

- 新しい伝統芸能「川里」の伝統
- 外部の方が将棋、コマ、うどん作り等教えに来る
- 保育園連携

ソフト

今後の小中一貫校

- 小中一貫校とはなにか、説明を丁寧に教えてほしい
- 川里の小中一貫教育の歴史から何をどう発展させるか学びたい
- 小中一貫校のメリット、デメリットを明らかにしてほしい
- 小中一貫教育のはじまりは中一ギャップときいているが教員との関係が大事 教員が多忙過ぎないようにのぞむ

これからのワークショップ中で説明してほしいと話が出ています

その他

- 転校しやすい
- ふるさと教育 帰りたくなる学校

行事交流

- 行事での交流（体育館・合唱祭）
- 学年を越えた交流できる場所

図書館

- 地域に開かれた図書館
- 学校図書館、地域図書館は別にしてほしい(防犯面)
- 地域の図書館などそのまま残してほしい

通学

- 自転車通学なくなったら車庫いらない
- スクールバス行き帰り

- エレベーター 生徒利用も含め 震災時に車イスの方も利用できるよう
- バリアフリー
- 高齢者交流スペース
- ランチルーム 全学年交流できる
- 宿直室 生徒の逃げ場
- 災害対策避難所 ＜地震＞

ハード

施設

- 学年ごとに教室スペースが区切られている事(中級)
- 小人数教室の充実
- 理科室は3っ位
- トイレの充実 男女個室
- 更衣室
- 廊下狭い
- 多目的ﾄｲﾚが欲しい（障害がある方も使える）

- ふるさと館は今の機能のまま残してほしい

Cグループ

『小中一貫教育に関するQ&A』

質問１　なぜ川里地域において学校新設を検討しているのか？

共和小学校は、児童数が一桁になる学年も出てきており、小規模化が進んでいる一方で、屈巣小学校や広田小学校では、児童数が維持されており、35人学級等における教室数の不足等が問題となっています。

また、３校全ての施設面において、施設の老朽化やバリアフリーへの対応といった課題があります。

校舎の大規模改修を検討する場合でも、市内にはより古い校舎もあり、雨漏り改修、外壁の劣化等、命にかかわる部分が優先となります。また、公共施設等総合管理計画の観点からも３校全ての大規模改修は現実的に難しいものとなります。

川里中学校区では、平成23年から埼玉県の小中一貫教育推進事業モデル地区の指定を受け小中一貫教育の研究と実践を重ねております。現在も取組は継続されていて、不登校の出現率や学力の向上において、効果が表れています。施設一体型の小中一貫校又は義務教育学校を新設することにより、今まで取り組んできた小中一貫教育をさらに充実させ、時代に合った、より良い教育を受けることができる、又川里地域の新たな拠点として、子育て世代を呼び込むことのできる学校を目指していきたいと考えています。

質問２　小中一貫教育とはどのような教育なのか？

小中一貫教育とは、「小・中学校が目指す子ども像を共有し、９年間を見通した教育課程を編成し、系統的な教育を目指す教育」のことを指します。

校舎が同じ敷地内にあること（施設一体型）や、校舎が別の敷地にあること（施設分離型）にかかわらず、小中一貫教育を行う学校制度としては、大きく分類すると、「義務教育学校」と「小中一貫校」の２つの形があります。

【小中連携、小中一貫校、義務教育学校の関係】

小中連携教育	・小学校・中学校の教員が情報交換や交流を行う。
小中一貫校	・目指す子ども像を共有し、９年間を通じた教育課程を編成 ・小学校・中学校は**組織上、独立**している
義務教育学校	・目指す子ども像を共有し、９年間を通じた教育課程を編成 ・小学校・中学校の**組織が一体化** （一人の校長、一つの組織）

※別紙「小中一貫校と義務教育学校の比較」参照。

【施設の設置パターン】

分離型	隣接型	一体型
敷地が離れている	敷地が隣接している	同じ敷地で校舎が一体化している

質問３　小中一貫教育校の設置累計数は？

全国での義務教育学校の設置状況は、平成 29 年度：48 校、30 年度：82 校、31 年度：94 校、令和 2 年度 126 校、令和３年度：151 校となっており、当初の想定を超えて設置が進行する状況となっています。「小中一貫型小学校・中学校」の設置累計予定数は、令和５年度以降で 525 校にのぼるとされており、さまざまな類型の小中一貫教育校の設置が広範囲に拡大しています。

質問４　川里地域における小中一貫教育の取組及び成果は？

川里中学校区は平成 23 年～25 年度に県の小中一貫教育推進モデル地区として、平成 26 年度からは「鴻巣市小中一貫教育推進モデル中学校区」として、研究と実践を重ねてきました。

（取組内容）

（１）教員交流部会の実践

・出前授業

⇒中学校の教員が川里中学校区３小学校に出向き、出前授業を実施。

・ティームティーチング

⇒各小学校の教員が中学校１年の授業に入り、教員２人体制で生徒の学習支援に当たる。

・教職員の合同研修会の開催

（２）児童生徒交流部会の実践

・あいさつ運動

⇒中学生が、朝の登校途中に、出身小学校の門で小学生の登校時に、元気にあいさつを交わし合う取組で、各学期各１週間実施している。

・林間学校の事前合同練習、合同実施

・体育祭、運動会での交流

・中学生社会体験チャレンジ

・３小学校合同授業

⇒小学校６年生が、中学校の教室を使い、中学校の日課表に合わせ、３校の児童を２～３クラスに均等に分けて実施。

・部活動体験（６年生）

・保育園と小学校の交流活動

（３）生徒指導部会の実践
・小中一貫教育合同研修会・生徒指導部会分科会の開催
・統一したきまり（教師用指導手引き）の作成
・「いきいきと主体的に活動する川里の子どもたち 10 の約束」（リーフレット）の作成
・学校・家庭・地域連絡会の開催
（成果）
〇平成 24 年から 27 年に実施したアンケートにおける、中学校入学前の体験で、入学前の不安などが少なくなったかという設問に対しての回答が改善。
⇒「不安が少なくなり安心して入学できた」の割合が 31％から 49％に上昇
〇不登校生徒の出現率の減少。令和 3 年度 2.9％、市内の平均 5.7％。
〇学力・学習調査では、全国平均と比較しての伸び率のうち、国語と数学において大きな伸びが見られる。

質問５　すでに成果があるのなら今のままでも良いのは？

施設分離型の小中一貫校では、学校間の距離が離れているため、取組を実施する際の連絡や移動の時間の確保、教職員の負担など、難しい面もあります。施設一体型にすることで、それらの課題が解消され、より大きな成果が見込まれると考えられています。

実際に、文部科学省が小中一貫教育を実施している全国の国公立小・中学校 1,130 校等を対象として実施した、「小中一貫教育等についての実態調査」の結果を見ても、「学力面」「生徒指導面」「児童生徒の情意面」「教職員の意識面」で、「施設隣接型」「施設分離型」に比べて「施設一体型」がアンケート結果で高い数値を示しています。

質問６　小中一貫教育校のメリットは？

（１）小中ギャップの緩和・解消

小学校と中学校の段差を緩和することで、小学校教育から中学校教育への円滑な移行を促すことが可能となり、中一の壁や小中ギャップと呼ばれる問題が緩和・解消する効果が期待されます。

（２）異学年交流による精神的な発達

１年生から９年生までの児童生徒が学校行事などを通じて異学年交流を行うことによって、上級生から下級生に対する思いやりの心、上級生・下級生の規範意識、下級生から上級生に対する憧れの気持ちなど、精神的な発達や社会性の育成等の効果が期待されます。

（３）継続的な指導

小学校と中学校が一つの学校となり、９年間継続して児童生徒に対する指導が行われるため、教員間で児童生徒の情報が共有しやすくなり、児童生徒の個性に応じたきめ細やかで丁寧な生徒指導が可能となります。

（４）設置者の判断による教育課程特例

①指導内容の入替え・移行

９年間を一つの「学び場」として考えるため、子どもたちの実態や理解の程度を考えて、指導する時期(学年)や指導する時数を柔軟に考えることができます。

（具体例）

・９年間を通じた基礎学力保障の取組を強化する一環として、思考力の根幹をなす語彙力・語彙表現を拡充する観点から９年間の系統性を踏まえつつ、漢字を習得する時期を早め、習得する漢字数を増やす。

・英語教育の早期導入と併せ、小学校低学年からアルファベットや単語指導を行う。

・小学校１年生からの基礎学力保障や学習内容の定着を重視した取組を行うことと併せて、中学校数学科の負の数や文字を用いた式の指導を小学校高学年に移行する。

②カリキュラムの開発

義務教育学校の特例として、９年間を見通した研究開発制度・教育課程特例制度の下で学校指導によらないカリキュラム開発も認められています。

（具体例）

・地域学習に関する取組（ふるさと学習）

・言語能力に焦点を当てた取組

・キャリア教育に関する取組

・情報活用能力の育成に関する取組

・環境教育に関する取組

・姉妹都市との交流を柱に据えた異文化理解に関する取組

（５）柔軟な学年段階の区切り

・指導の一貫性の教科の一環として、子どもの発達の早期化への対応や中学校段階への移行に際して、子どもが体験する段差の緩和を図る観点から「４－３－２」や「５－４」など、学年段階の区切りを柔軟に設定することが可能となります。

・小学校段階と中学校段階の間に円滑な移行のための期間を意図的に設けることにより、学習指導面・生徒指導面でのいわゆる「中１ギャップ」又は「小中ギャップ」の緩和に資することができます。

・区切りごとに、育成を目指す資質・能力、指導上の重点、具体的な目標等を明確に定めておくことにより、学年完結型となりがちな教職員の意識改革を促し、上学年への進級や中学校卒業時点をイメージした取組を強化することができます。

（６）教員の指導体制について

①教科担任制の導入形態

・特定教科における専科指導

・学級担任間の授業交換

・専科担当教員と学級担任とのＴＴ（ティームティーチング）

②教科担任制のメリット

（学習指導の改善に関するもの）

・指導の専門性に根ざした質の高い授業を行うことにより、学力や学習意欲の向上が期待できます。

・同じ授業を複数の学級で担当することから、授業の反省点を即座に次の授業に生かすなど、指導方法の工夫改善を行うことが容易になります。

・限られた教科に集中できるため、教材研究や授業準備に多くの時間をかけられたり、ガイダンス機能を充実させたりするなどの様々な工夫が可能となります。

・学年を超えて同一教科を担当する場合は、教科の系統性に対する理解を一層深め、指導と評価の改善につなげることができます。

・配当時間数の同じ教科を隣の学級の教員と交換授業で持ち合い、複数学級を指導することが恒久化することにより、「自分の学級」から「自分の学年集団」「自分の学校」という意識の醸成につなげることができます。

（生徒指導の改善に関するもの）

・学級内の生徒指導上の課題を学級担任一人で抱え込むケースが減少することにより、問題行動を早期に発見し、複数教員の連携により迅速に対応する体制を整えることができます。

・多くの教職員が指導に関わることとなるため、いわゆる学級王国の弊害を減らすことができます。また、多くの教職員の目で見た情報を次年度の学級編成に生かすことができます。

・担任以外の教員に接する機会が増えることにより、子どもたちの間に良い意味での緊張感を醸成することができます。

・興味・関心が多様化する思春期前期において、多様な指導に関わることにより、子どもたちの良さを多面的に評価したり、資質や能力を伸ばしたりすることができます。

・「好きな先生」や「嫌いな先生」といった感情が見られる場合において、良い関係性を築いた教員が主となって、生徒指導上の課題がある児童に指導するといった工夫も可能となります。

・学級担任が教科担任の指導に参画したり観察したりする機会を頻繁に持つことにより、担任する児童に関する新たな側面を知ることができ、児童理解を深めることができます。

質問７　施設一体型小中一貫校及び義務教育学校の課題は？

９年一貫した環境による人間関係の固定化、小学校高学年におけるリーダー性の育成などが教育指導上の課題として挙げられます。

（課題への対応）

例えば人間関係の固定化に対しては、異学年交流スペースを充実させて交流を大幅に増やすこと、小学校高学年におけるリーダー性育成に対しては、校舎やフロアの区分による成長段階の演出効果により、児童生徒が自らの成長を実感できる工夫を行うこと等が必要と考えます。

また、体格差の大きい児童生徒が同じ施設を利用することから、運動場の分離、学校用家具の強度や寸法への配慮など安全性を確保することも重要となります。

これらの課題も含めて、今後検討していかなければならない事項については、先進自治体において既に検討及び対応がされてきている部分もあるため、参考にしながら在り方を検討していきます。

質問８　小中一貫校と義務教育学校のどちらを検討しているのか？

現時点では、義務教育学校を検討しています。

義務教育学校を提案している大きな理由は「一つの学校組織であること」です。

小中一貫校では、小学校と中学校は別の学校となるので、それぞれに教職員組織があり、別々の教育目標の設定や教育課程の編成が行われます。

一方で、義務教育学校は一つの組織であるため、１名の校長先生のリーダーシップのもと、９年間を見通した教育目標を掲げ、教職員は小学校・中学校の分け隔てなく児童生徒の指導にあたります。

組織が一つであるということは、まず学校運営面での利点があります。文部科学省は、小中一貫教育が求められる背景として、「小中一貫した教育課程の編成・実施に関する手引」の中で「教育内容や学習活動の量的・質的充実に対応して、小学校と中学校の教員が連携して、例えば、小学校高学年での専門的な指導の充実や、児童生徒のつまずいた学習内容についての長期的な視点に立ったきめ細やかな指導などの学習指導の工夫に取り組むことの重要性が増してきた」ことを挙げています。

例えば、小学校高学年の「外国語」授業を、中学校の英語科免許を持つ教員が授業を行う場合、小中一貫型学校では教員が、別の学校を兼務するという「兼務申請」が毎年必ず必要となるが、義務教育学校においては申請の必要はありません。

これは手続き上の問題だけではなく、教員の意識改革にもつながります。例を挙げれば、「中学校の教員なのに、小学校にも行かなければならない」ではなく、「自分の学校の児童生徒を指導するのは当たり前」という考え方に変わるということです。

文部科学省が指摘しているように、小学校と中学校には緊密な連携が求められますが、そのための手立ての一つが小中一貫教育であり、それをさらに充実したものにしていくのが「義務教育学校」という学校制度と考えています。

質問９　小中一貫教育校又は義務教育学校になることで、教職員の数は減らされないか？

現在と同じように、埼玉県市町村立小・中学校教職員配当基準表に基づいて教職員が配置されることから、小中一貫校でも義務教育学校でも職員の配置人数に違いはありません。

質問 10　義務教育学校では 6 年生の卒業式や中学 1 年生（7 年生）の入学式はどうなるのか？

義務教育学校では、９年生（中学 3 年生相当）を対象に卒業式を他の中学校と同日に執り行います。6 年生は、「前期課程の修了」という位置づけになるため、卒業式は行いません。

一方で、6 年間の教育課程の修了という節目を祝うために、９年生の卒業式と同じ日の同じ会場で、前期課程（小学校に相当）の「修了証書授与式」を行っている学校が多数あります。

また、義務教育学校 1 年生の入学式は、他の小学校と同日に開催、中学 1 年生の入学式に代わり、7 年生「進級式」も入学式と同日に行われています。子どもたちの達成感や充実感を大切にするため、こうした取組を工夫することは重要であると考えています。

質問 11　義務教育学校後期課程（中学校相当）の部活動はどのようになるのか？

現在の部活動は継続して活動を行います。各種大会等にも、これまでと同じように参加することはできます。

部活動のあり方、新たな部活動の設置、前期課程（小学生）の部活動への参加等については、今後検討していくものとなります。

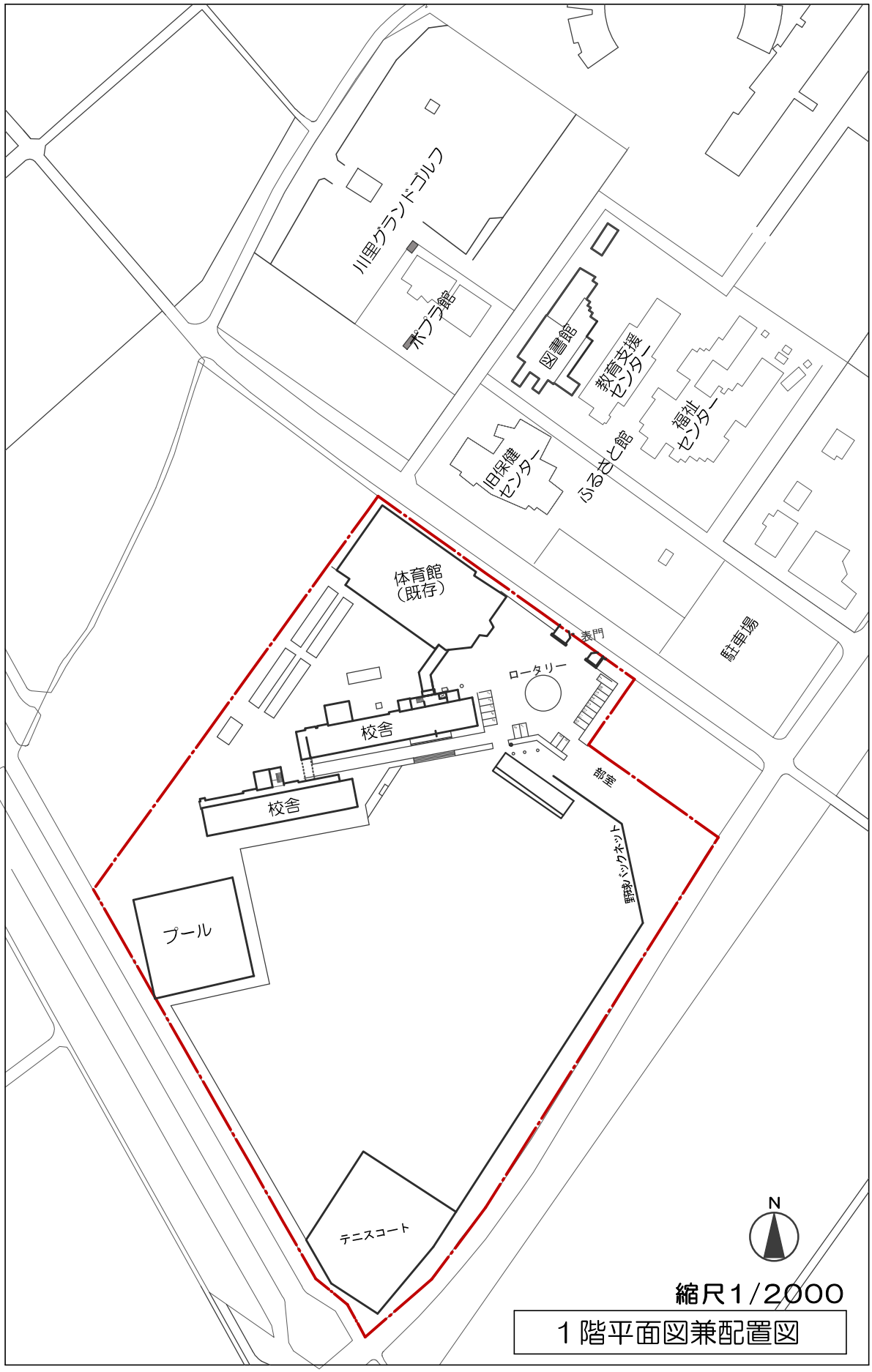
別紙

小中一貫校と義務教育学校の比較

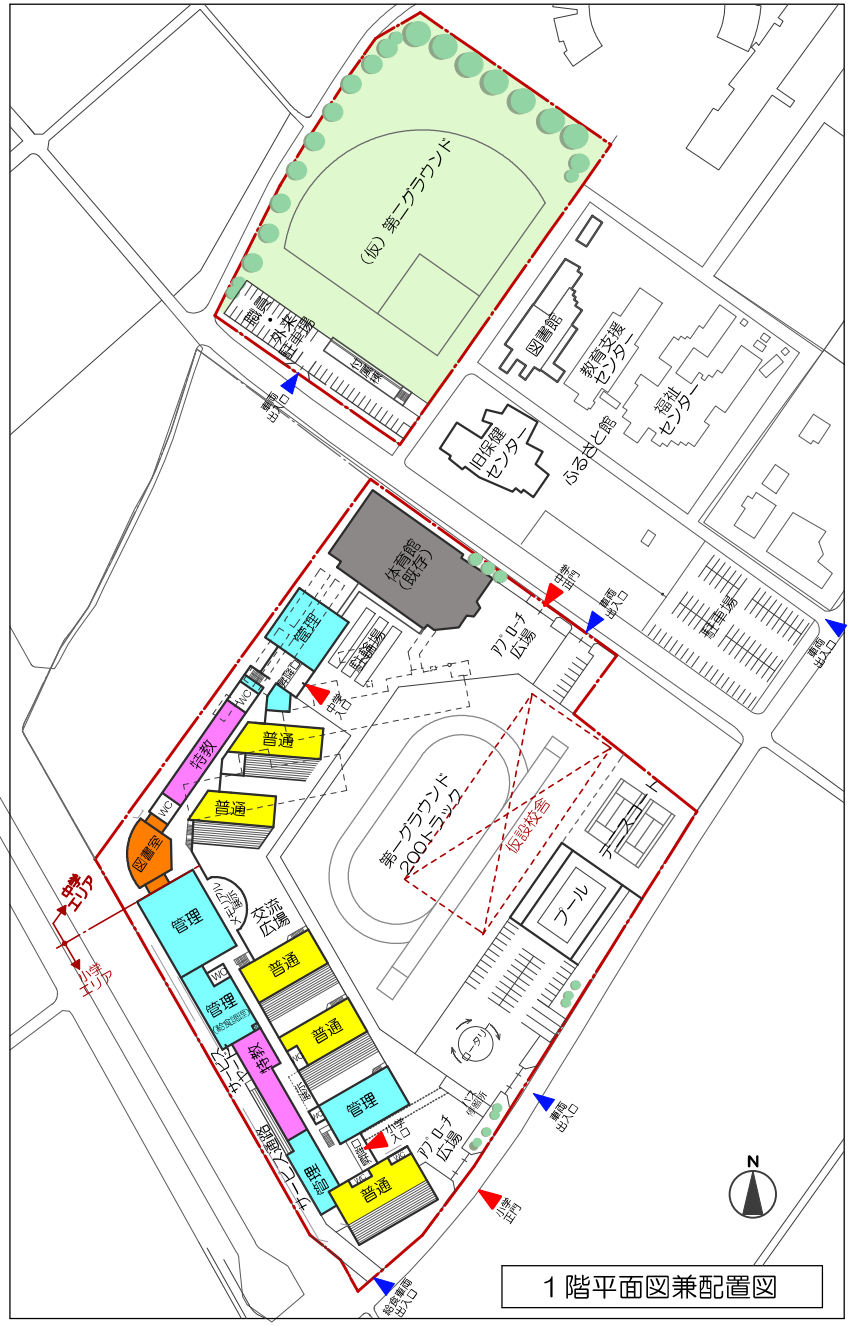
		小中一貫校	義務教育学校
形態		○施設一体型 ○施設隣接型 ○施設分離型	○施設一体型 ○施設隣接型 ○施設分離型
名称		従来の小学校、中学校は廃止せず、鴻巣市立学校の管理運営に関する規則で小中一貫校の名称を規程	従来の小学校、中学校を廃止して設置する。 ※「義務教育学校」は法律上の学校の種類を表す名称。個別の学校名に「義務教育学校」を付ける必要はない。
教育課程		６－３制 ※カリキュラム編成上の工夫として４－３－２の学びの区分を設定	前期課程６年・後期課程３年 ※カリキュラム編成上の工夫として４－３－２、５－４などの区切り設定も可。
修業年限		小学校６年・中学校３年	９年
第６学年終了時	取扱	小学校の全課程修了	前期課程の修了
	証書	卒業証書	修了証書
	儀式	卒業式	修了式
第７学年開始時	取扱	入学	進学
	儀式	入学式	始業式
教員免許		小学校：小学校の教員免許状 中学校：中学校の教員免許状	小学校・中学校の教員免許状を両方有する者 ※当分の間は小学校の免許状で前期課程、中学校の免許状で後期課程の教諭になることができる。
指導上の工夫		小学校・中学校の兼務発令を行うことで、一貫校の教員として全児童・生徒に生活指導など行えるようにしている。	どの教員も義務教育学校の全児童・生徒に生活指導などを行うことができる（兼務発令は不要）。

配置計画・平面ゾーニング計画

【現況】（既存校舎、周辺状況）



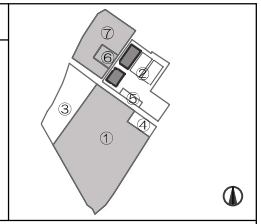
【1案】（敷地拡張なし・南側グラウンドパターン）

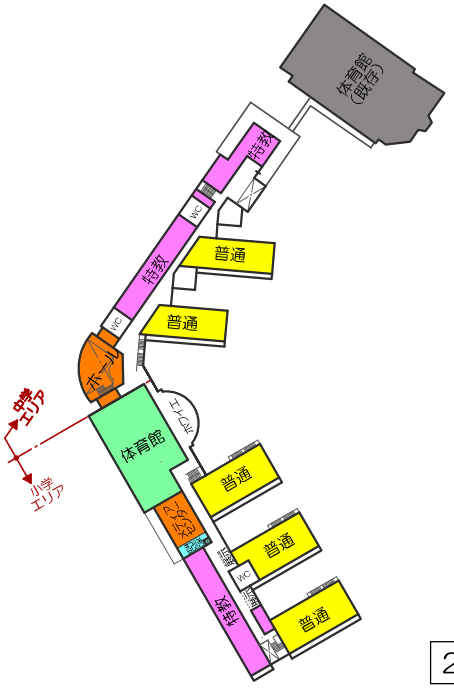


1階平面図兼配置図

計画概要

1	敷地購入	不要
2	対象敷地	①川里中学校敷地 ⑥ポプラ館敷地 ⑦グランドゴルフ敷地 ※既存図書館（改修） ※既存保健センター（改修）
3	校舎	2階建て
4	体育館（新設）	2階に設置（3階吹き抜け）
5	プール	新設（地上）
6	第二グラウンド	あり
7	テニスコート	校舎敷地に新設
8	児童クラブ	改修・新設・複合化を検討
9	図書館	既存図書館を改修
10	駐車場の増設	校舎敷地に新設
11	仮設校舎	あり
12	残工事の発生	あり（既存体育館の改修、グラウンド整備、仮設校舎解体）





2階平面図

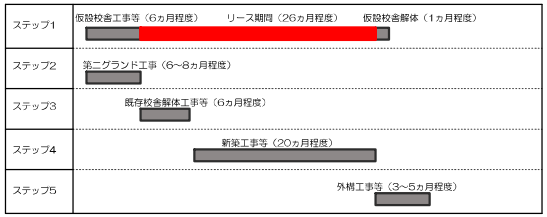
計画の特徴

①敷地購入を行わない計画
②校舎敷地に第二グラウンド以外のすべての施設を配置した
③既存校舎と同じ位置に校舎を計画するため、仮設校舎が必要になる
④敷地内のグラウンドが狭いため、第二グラウンドは必須となる
　グランドゴルフ場を第二グラウンドにする案にしたが、ふるさと館を第二グラウンドする計画も考えられる
⑤4階建て校舎を配置してもグラウンドは同じくらいの狭さとなる

課題点

配置・外構	①敷地に対して施設の密度が高いので、余裕のある配置構成が難しい ②駐輪場の設置位置が悪い ③中学生側の歩行者と自転車のアプローチ動線が交錯する ④プールの位置が悪い ⑤中学校敷地外にグラウンド整備が必要 ⑥仮設校舎が必要になるため建設コストが増える ⑦小学校、中学校、ふるさと館、グランドゴルフ、児童クラブに対して、駐車場の不足が想定される

工事工程

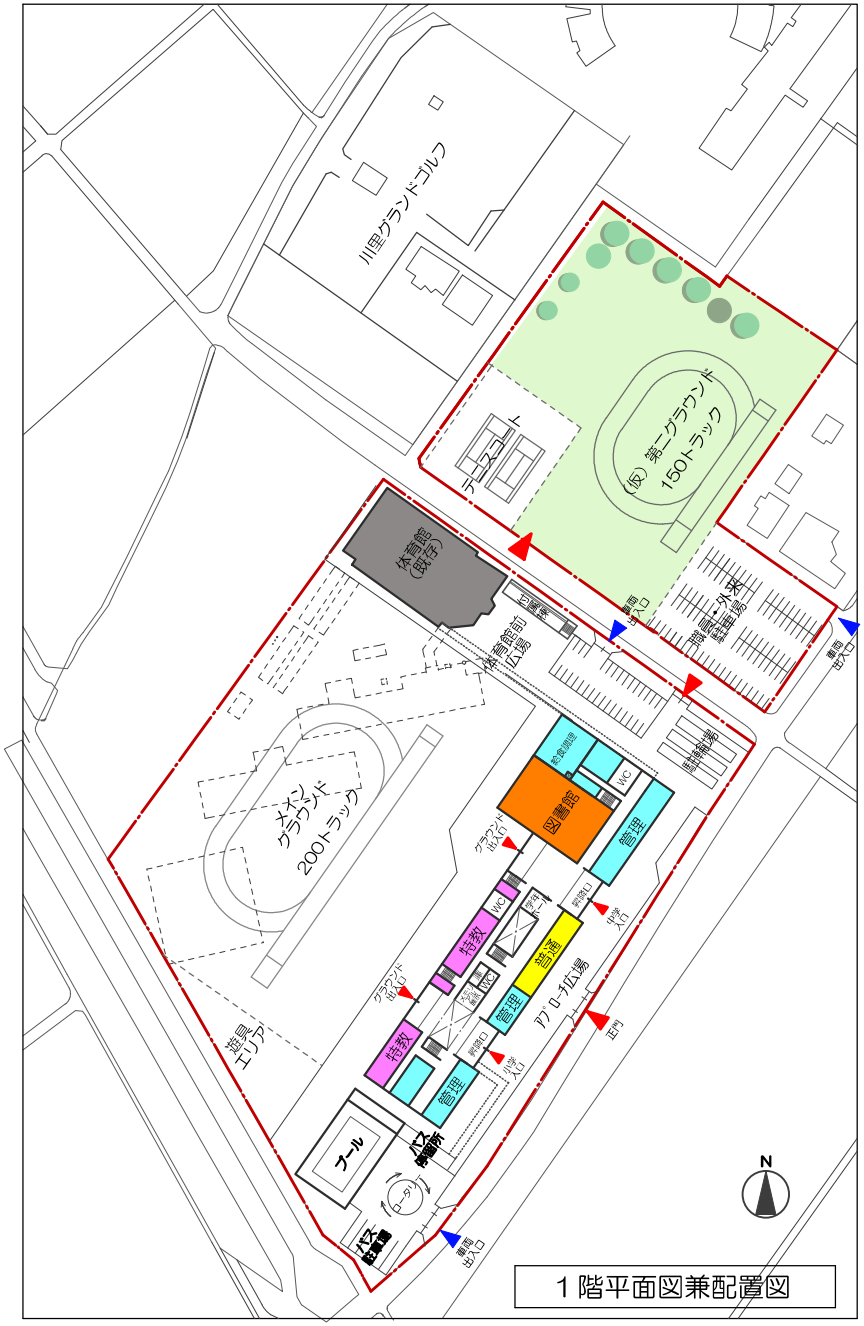


凡例

- 普通教室ゾーン
- 特別教室ゾーン
- 管理ゾーン
- 運動ゾーン
- 交流ゾーン
- 既存改修ゾーン
- 出入口
- 出入口（車）

縮尺1/2000

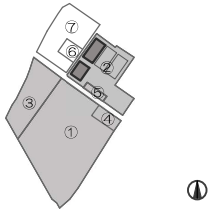
【２案】（一部 敷地拡張・北側グラウンドパターン）



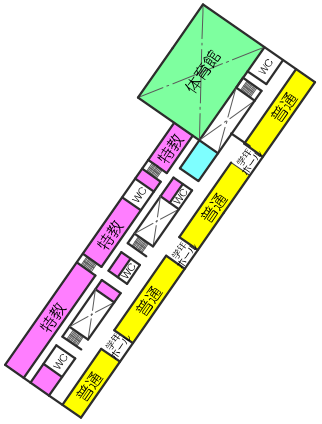
１階平面図兼配置図

計画概要

1	敷地購入	必要
2	対象敷地	①川里中学校敷地 ②ふるさと館敷地 ④東側隣地 ⑤ふるさと館隣地 ⑥ポプラ館敷地 ※既存ポプラ館（改修）
3	校舎	３階建て
4	体育館（新設）	２階に設置（３階吹き抜け）
5	プール	新設（地上）
6	第二グラウンド	なし
7	テニスコート	ふるさと館敷地に新設
8	児童クラブ	改修・新設・複合化を検討
9	図書館	小中学校の図書館と複合化
１０	駐車場の増設	校舎敷地に新設
１１	仮設校舎	なし
１２	残工事の発生	あり（既存校舎の解体、既存体育館の改修、グラウンド整備）



２階平面図



３階平面図

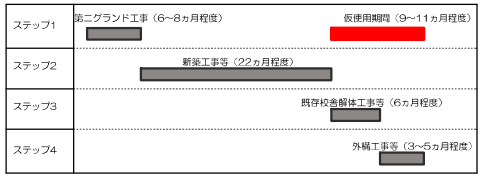
計画の特徴

①グラウンドに新校舎を計画することで、工事期間も中学生は既存校舎を使用することが可能になる
②限られた範囲に建てることになるため、３階建て（体育館を２階）の計画とした
③校舎を南東側に寄せるため、北西側にグラウンドを配置する計画となる
④体育館を既存改修して再利用
⑤図書館は、小中学校の図書室と複合化させる計画とする

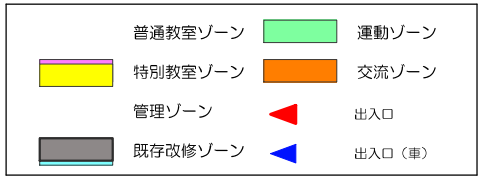
課題点

校舎	①普通教室が道路及び隣地に面する ②昇降口とグラウンドが反対になるため、グラウンド側にも出入口を設ける必要がある ③普通教室が南東向きになる ④特別教室が北西向きになる ⑤中学生エリアと小学生エリアが混在する
配置・外構	①土地の拡張が必要になる ②テニスコート等の一部の施設が敷地外になる ③校舎建設前に第二グラウンド整備が必要になる ④メイングラウンドが校舎の日影になる ⑤駐車場が不足する ⑥季節風の影響を受けやすくなる ⑦小中学生のアプローチ動線が交錯する ⑧改修する既存体育館までの距離が遠くなる

工事工程

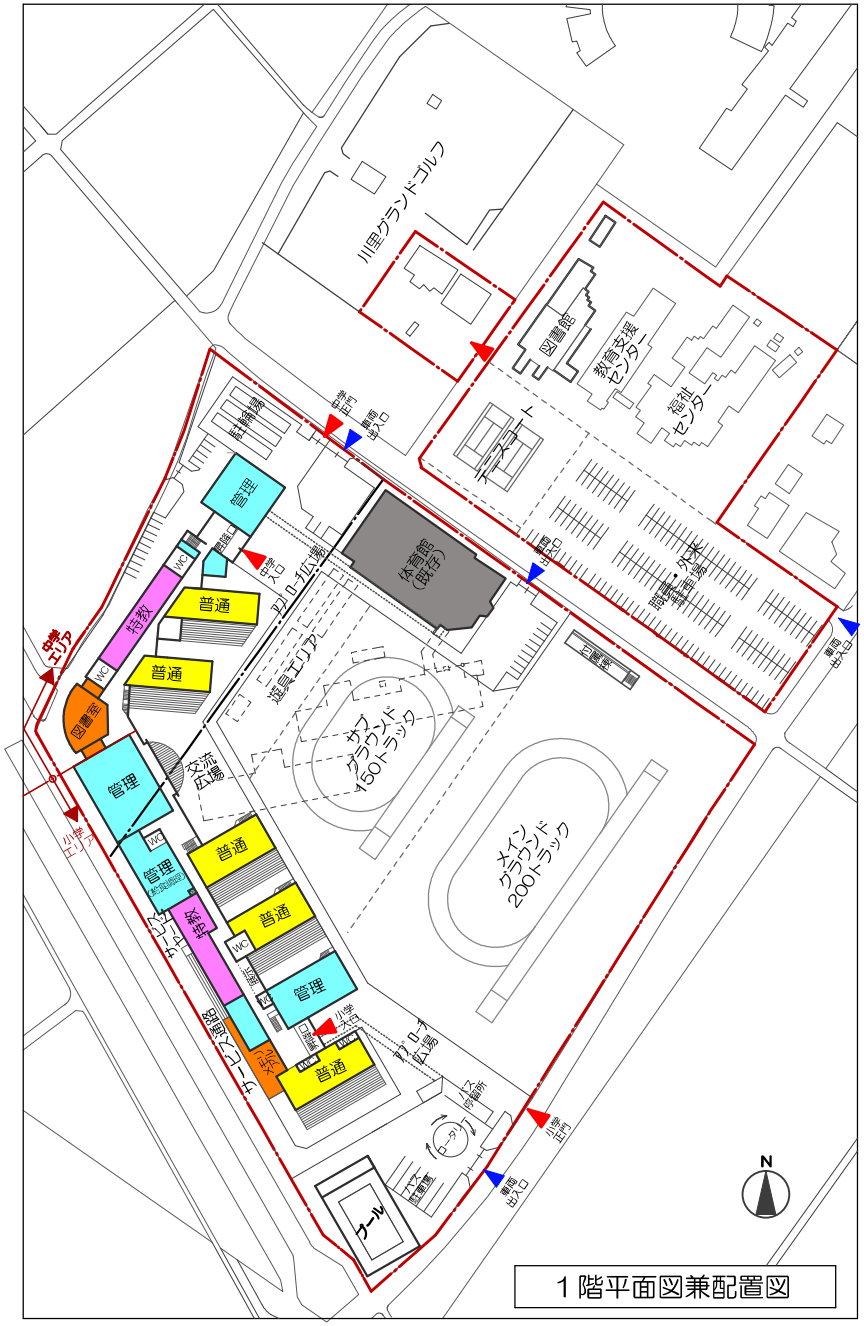


凡例



縮尺1/2000

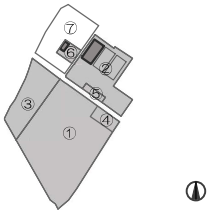
【3案】（北西側 敷地拡張・2階建て案）



1階平面図兼配置図

計画概要

1	敷地購入	必要
2	対象敷地	①川里中学校敷地 ②ふるさと館敷地 ③北西隣地 ④東側隣地 ⑤ふるさと館隣地 ⑥ポプラ館敷地 ※既存図書館（改修） ※既存ポプラ館（改修）
3	校舎	２階建て
4	体育館（新設）	２階に設置（３階吹き抜け）
5	プール	新設（地上）
6	第二グラウンド	なし
7	テニスコート	ふるさと館敷地に新設
8	児童クラブ	改修・新設・複合化を検討
9	図書館	既存図書館を改修
10	駐車場の増設	ふるさと館駐車場を増設して職員用駐車場として利用
11	仮設校舎	なし
12	残工事の発生	あり（既存校舎の解体、既存体育館の改修、グラウンド整備）



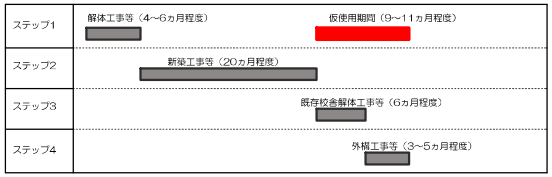
計画の特徴

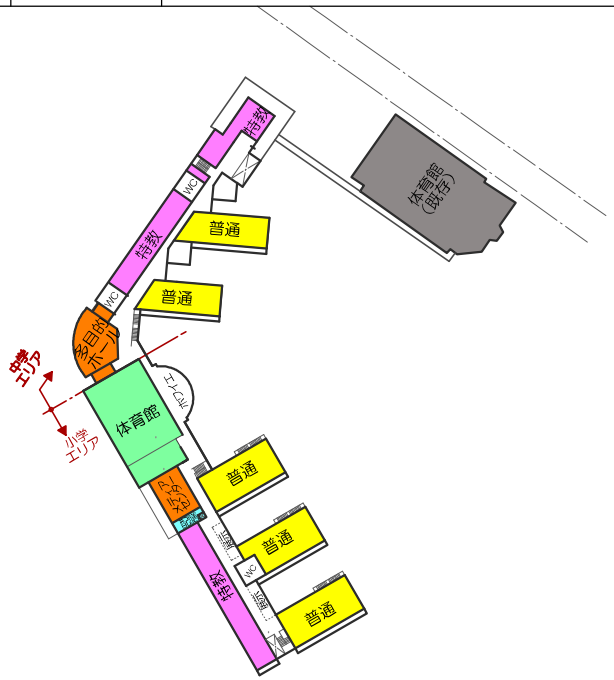
①既存校舎をよけた位置に新校舎を計画することで、工事期間も中学生は既存校舎を使用することが可能になる
②北東側に中学生アプローチ、南東側に小学生アプローチを計画
③小学エリアと中学エリアを明確に区分した
④普通教室を南に向けると共に適切な隣棟間隔をあけ、教室の採光換気を確保できるように配慮した
⑤小学生のバス通学や中学生の自転車通学を歩行者動線と区分し、歩車分離に配慮した
⑥図書館は、ふるさと館の既存図書館を改修して再利用

課題点

配置・外構	①土地の拡幅が必要になる ②テニスコート等の一部の施設が敷地外になる ③駐車場が不足する ④既存校舎解体工事中は、グラウンドへのアプローチに配慮が必要になる ⑤新校舎と旧校舎が近接している範囲は、工事中の目隠し養生、騒音対策等の配慮が必要になる

工事工程





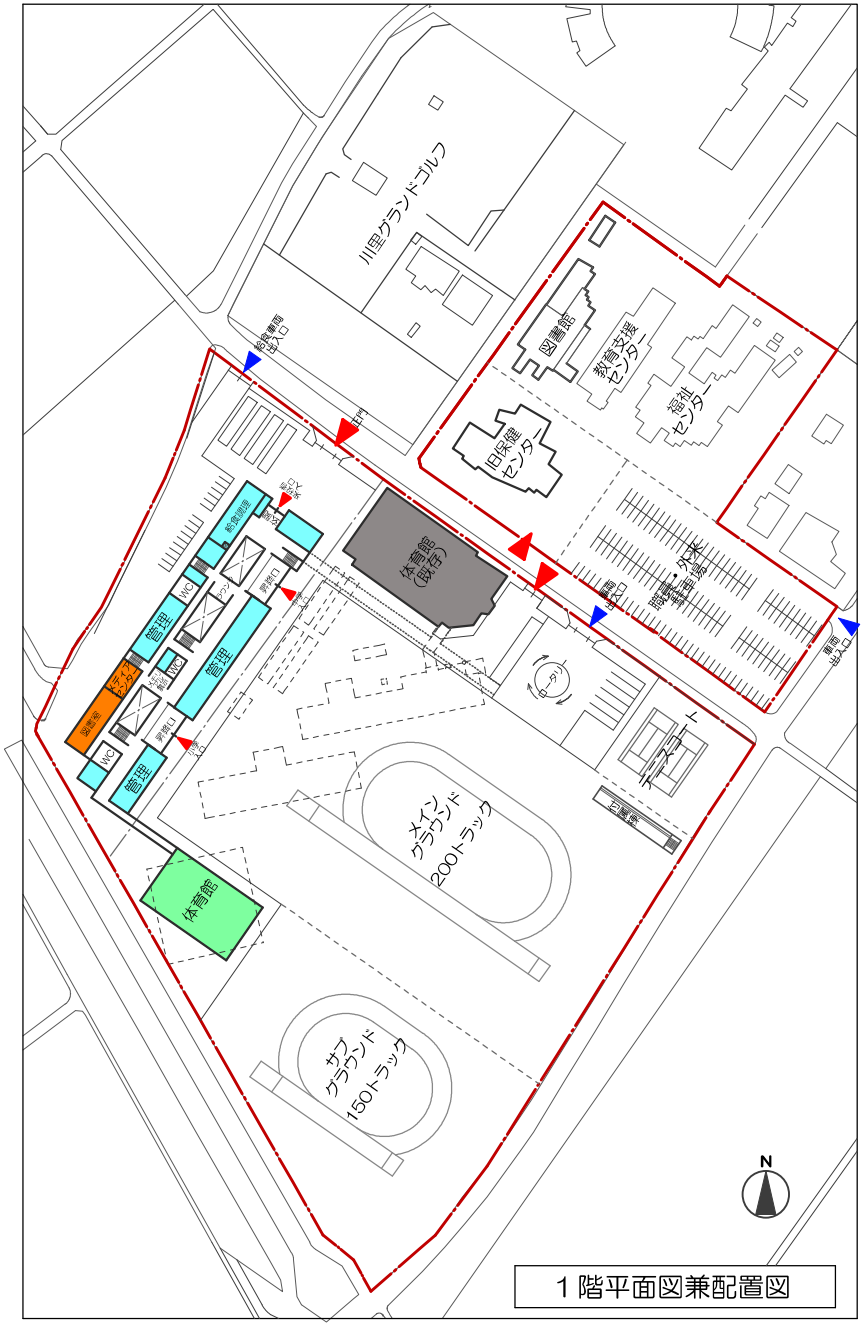
2階平面図

凡例

- 普通教室ゾーン
- 特別教室ゾーン
- 管理ゾーン
- 運動ゾーン
- 交流ゾーン
- 既存改修ゾーン
- 出入口
- 出入口（車）

縮尺1/2000

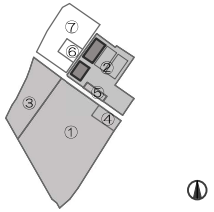
【4案】（北西側 敷地拡張・４階建て案）



１階平面図兼配置図

計画概要

1	敷地購入	必要
2	対象敷地	①川里中学校敷地 ②ふるさと館敷地 ③北西隣地 ④東側隣地 ⑤ふるさと館隣地 ※既存図書館（改修） ※既存保健センター（改修）
3	校舎	４階建て
4	体育館（新設）	１階に設置（２階吹き抜け）
5	プール	体育館屋上に設置
6	第二グラウンド	なし
7	テニスコート	校舎敷地に新設
8	児童クラブ	改修・新設・複合化を検討
9	図書館	既存図書館を改修
１０	駐車場の増設	ふるさと館駐車場を増設して職員用駐車場として利用
１１	仮設校舎	なし
１２	残工事の発生	あり（既存校舎の解体、既存体育館の改修、グラウンド整備）



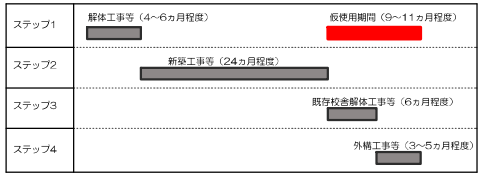
問題点

校舎	①普通教室が南東向きになる ②特別教室が北西向きになる ③中学生エリアと小学生エリアが混在する ④日影規制の影響を受ける ⑤上階への動線が長くなる
配置・外構	①バスロータリーから昇降口へのアプローチの距離が長い ②小中学生のアプローチ動線が交錯する ③昇降口を小学生と中学生で分けた場合、片方がかなり奥側になる ④工期が長くなる ⑤一部敷地の拡張が必要になる

計画の特徴

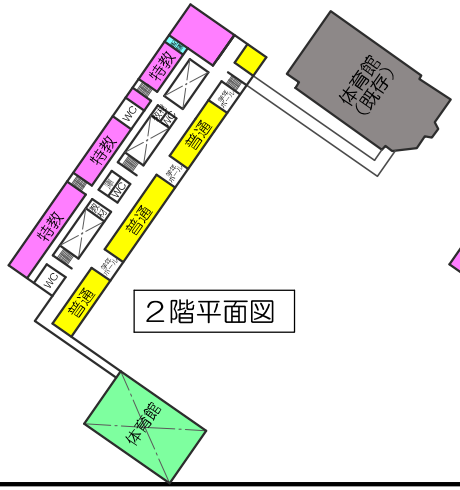
①北側の拡幅敷地に新校舎を計画することで、工事期間も中学生は既存校舎を使用することが可能になる
②４階建てとすることで、グラウンドと外構を広く活用できるように考慮した計画
③プールを屋上に設置した体育館棟を計画
既存プールのインフラ経路を再利用できるように既存プールの位置に配置した
④グランドを２面配置して敷地内で完結する計画とした
⑤図書館は、ふるさと館の既存図書館を改修して再利用

工事工程



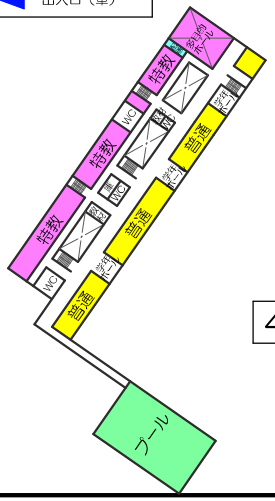
凡例

- 普通教室ゾーン
- 特別教室ゾーン
- 管理ゾーン
- 運動ゾーン
- 交流ゾーン
- 既存改修ゾーン
- 出入口
- 出入口（車）



２階平面図

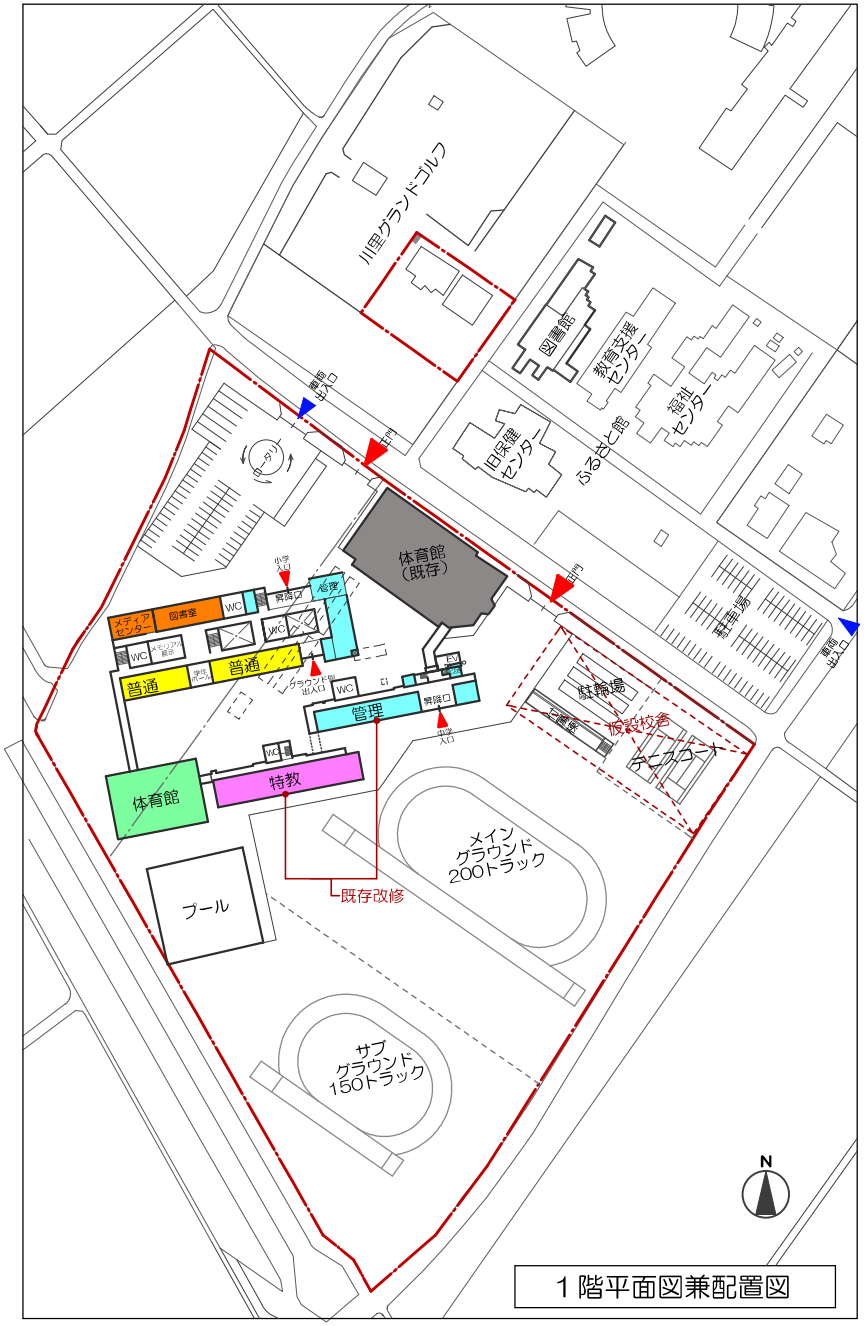
３階平面図



４階平面図

縮尺1/2000

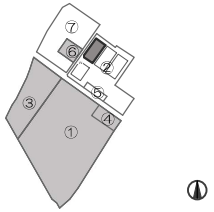
【5案】（北西側 敷地拡張・改修+増築パターン）



1階平面図兼配置図

計画概要

1	敷地購入	必要
2	対象敷地	①川里中学校敷地 ③北西隣地 ④東側隣地 ⑥ポプラ館敷地 ※既存ポプラ館（改修） ※既存図書館（改修）
3	校舎	3階建て（一部既存校舎）
4	体育館（新設）	1階に設置（2階吹き抜け）
5	プール	既存プールを改修
6	第二グラウンド	なし
7	テニスコート	校舎敷地に新設
8	児童クラブ	改修・新設・複合化を検討
9	図書館	既存図書館を改修
10	駐車場の増設	校舎敷地に新設
11	仮設校舎	あり
12	残工事の発生	あり（既存校舎の解体、既存体育館の改修、グラウンド整備）



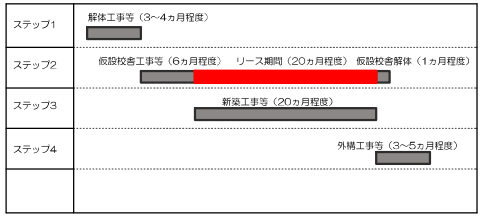
問題点

校舎	①既存校舎の日影の影響を受けるエリアがある ②渡り廊下の上下足の問題の解決が困難 ③新校舎からの既存体育館への経路が複雑 ④既存校舎側にEV棟の増築が必要になる
配置・外構	①グラウンドの形状が成形ではない ②新校舎からグラウンドへのアプローチが悪い ③校舎と既存体育館の間などの、成形でないデットスペースが多い ④一部敷地の拡張が必要になる ⑤小学校、中学校、ふるさと館、グランドゴルフ、児童クラブに対して、駐車場の不足が想定される ⑥仮設校舎が必要になるため建設コストが増える

計画の特徴

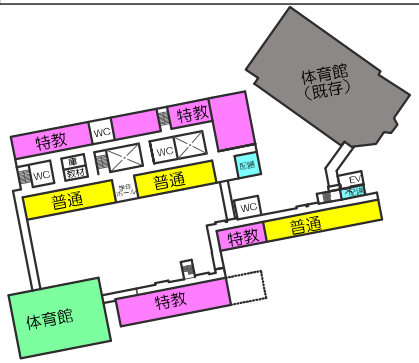
①増築と既存校舎改修を併用してコストを抑えた計画
②既存校舎は階段蹴上等の制約があるので、中学生用の校舎として再利用
③小学生用の校舎と体育館を増築
④各棟は渡り廊下で接続する
⑤プールは、既存プールを小学生用に改修して再利用
⑥グランドを2面配置して敷地内で完結する計画とした
⑦図書館は、ふるさと館の既存図書館を改修して再利用

工事工程

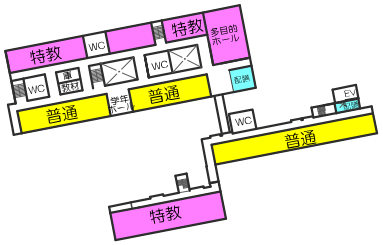


凡例

- 普通教室ゾーン
- 特別教室ゾーン
- 管理ゾーン
- 運動ゾーン
- 交流ゾーン
- 既存改修ゾーン
- 出入口
- 出入口（車）



2階平面図



3階平面図

縮尺1/2000